

GPS 安全性要約書

エマール E-27C

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全性データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名: EMAL E-27C
化学名: Sodium polyoxyethylene(2) lauryl ether sulfates
CAS 番号: 68585-34-2

2. 使用・用途と適用

EMAL E-27C は植物由来の陰イオン性界面活性剤です。洗浄剤、清掃剤、空気清浄剤、研磨剤、建設用化学品、農薬、織物製品、塗料、インク、作物保護剤などに一般的に使用されています。

低濃度においても気泡力が強く、他の陰イオン、非イオン、両性界面活性剤と混合して使用する事も出来ます。この物質の起泡性は硬度や温度に影響されにくく、優れた土壌の分散作用があります。

3. 物理化学的特性

この物質に物理化学的危険性は認められません。

特性	値・性状
物理的状態	粘稠な液体

色	淡黄色透明
臭い	わずかな（若干）特異臭
pH	5.2（1%水溶液）
密度	1.05 g/mL (20 °C)
融点	情報なし
沸点	情報なし
引火点	検出せず
可燃性	情報なし
爆発性	情報なし
自然発火温度	情報なし
蒸気圧	情報なし
水への溶解性	可溶（易溶）
オクタノール／水分配係数(LogKow)	情報なし

4. ヒト健康影響

未希釈のこの物質は皮膚刺激性があり、眼に入ると重篤な損傷を与えると考えられます。

アセスメント項目	結果（EU(REACH)によるアセスメント）
急性毒性：経口/経皮	入手可能なデータから、経口/経皮暴露による急性毒性は示さないと考えられます
刺激性/腐食性：皮膚/眼	皮膚刺激があります。眼に対する重篤な損傷の原因となります。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性はないと考えられます。
繰り返し暴露による毒性	入手可能なデータから、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性は示さないと考えられます。

5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、この物質は水生生物に対しての急性毒性と長期継続的影響による有害性を示すことが示唆されます。一方、排水処理施設の活性汚泥に対する悪影響はないと考えられます。また、容易に生分解されるため、食物連鎖における濃縮はなく、環境中にも残留しないと考えられます。

アセスメント項目	結果（EU(REACH)におけるアセスメント）
水生毒性	水生生物に対し急性毒性を示します。長期継続的影響により水生生物に有害であると考えられます。
生分解性	容易に生分解されます。

注)

PBT = Persistent, Bioaccumulative and Toxic (残留性・蓄積性・毒性を有する物質)

vPvB = Very Persistent and Very Bioaccumulative (高残留性・高蓄積性を有する物質)

6. 暴露

消費者

消費者は洗剤、清掃剤、空気清浄剤、研磨剤、農薬、織物製品、塗料、インクなどの使用でこの物質に接触する可能性があります。これらの用途におけるこの物質の濃度は懸念されるレベル以下です。推奨される用途で使用される場合、消費者に対するリスクはありません。しかしながら、消費者は常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている、使用上の注意に従わなければなりません。

作業員

この物質の生産設備や多くの取り扱い設備では、この物質による暴露が発生します。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストや他の作業においても暴露されます。教育を受け訓練された作業員のみが、(希釈されていない) この物質を取り扱います。各製造設備では、不必要な暴露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の設置と共に、作業員向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。安全シャワーや眼を洗う設備はすぐそばに設置されています。作業員はSafety data Sheetに記載されている応急措置に従う訓練を受けています。

環境

この物質は広範囲にわたり使用されているため、消費者用の洗剤や清掃剤の使用に伴う排出と同様、製造、準備・取扱い・貯蔵など工業的に取り扱う場所からも排水処理施設へ排出されます。しかしながら、この物質は容易に生分解されるため、排水処理施設において効率的に取り除かれます。排水中にわずかに残った場合でも、表層水中で生分解を受け、迅速に取り除かれます。従って、長期に渡る水生生物への暴露は起こり得ないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖において濃縮されないため、環境経由のヒトへの暴露は懸念されません。

7. 推奨リスク管理措置

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手や皮膚の保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着して下さい。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。化学物質に接触した後は、手や皮膚を洗って下さい。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けて下さい。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。直ちに医師に連絡して下さい。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理設備を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、この物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険性に従って分類されています。この危険性の情報は特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されています。GHS では化学物質の暴露が想定される対象者（作業員、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解ができるように努めています。

EMAL E-27C の分類・ラベル情報:

皮膚腐食性および刺激性：区分 2	H315：皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷／刺激性：区分 1	H318：重篤な眼の損傷
水生環境有害性（急性）：区分 2	H401：水生生物に毒性
水生環境有害性（長期間）：区分 3	H412：長期継続的影響により水生生物に有害



注意喚起語：危険

9. 結論

この物質は、水生生物に対する急性および長期継続的影響を示すと分類されていますが、容易に生分解されるため、環境へのリスクは無視できると考えられます。PBT/vPvB の評価結果から、この物質は PBT/vPvB には該当していません。未希釈のこの物質への接触は皮膚刺激と眼への損傷の原因となります。この物質そのものを取り扱う作業員は、標準的な応急処置に従い、**Safety Data Sheet** を参照する必要があります。消費者はこの物質そのものには接触せず、消費者製品中の濃度はヒト健康に懸念を及ぼす濃度以下であることから、一般大衆に対してリスクはないと考えられます。

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署	花王株式会社, ケミカル事業ユニット
電話番号	03-5630-7700
ファックス番号	03-5630-7889
電子メール	chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては国際化学工業協議会のポータルをご覧ください。

(<http://www.icca-chem.org/en/Home/ICCA-initiatives/global-product-strategy/>)

11. 用語集

急性毒性	単回暴露による有害な影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
生物濃縮性	環境における物質の濃縮性
発がん性	がんを引き起こす作用影響
慢性毒性	繰り返し暴露による有害な影響
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和
ハザード	ヒト健康や環境への有害性
変異原性	遺伝子に変異をもたらす影響
生殖毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
感作性	アレルギー誘発性

12. 発行日

2014年4月21日